

## 地域医療

# 北陸病院（富山県）の認知症医療



## 地域の方々と共に患者・家族を支える医療を

### 認知症医療は家族を助けること

「認知症医療では、家族を助けるという観点も大切です」そう語ってくれたのは、レビー小体型認知症の研究でも知られる吉田光宏医師（北陸病院副院長）です。



認知症も、他の病気と同じく早期の診断が最も大切だと吉田医師。家族だと、どうしてもきつい言い方になってしまって、本人にとってもストレスとなって逆効果となり、家族関係が崩壊してしまうこともあるといいます。しかし、早期に発見できれば家族も認知症への理解が進み、接し方のアドバイスもできると強調します。

「認知症は本人が理解できないので、家族が変わることが必要です。早期に発見できれば通院で入院を遅らせることもできるし、困った場合は、抱え込まず私たちに任せればいいのです」

また、患者さんは家庭で問題を起こしても、入院して病棟に入ると落ち着く人が多いといいます。いかに環境が影響するかという証拠で、それは家族が悪いということではなく、誰からもきつく言われない環境で同じサイクルを過ごすことで、落ち着きを取り戻していくのだそうです。「落ち着けば、薬を使わなくて済むようにさえなる」と語ります。

## 地域での役割が大きい認知症医療

南砺（なんと）市は富山県内でも高齢化が速い地域で、高齢化率（65歳以上の割合）は2014年統計で34.1%（全国平均は26%）となっています。このため、南砺市では2013年に「認知症集中支援チーム」が立ち上げられ、認知症のみならず、支援が必要な高齢者を地域で支えていくためのケアネット活動（見守りのボランティア）も積極的に行われています。こうした行政や地域との連携も認知症対策には非常に重要で、地域ぐるみで支えるための役割の一翼を同院は担っているのです。

同院には富山県の指定による認知症疾患医療センター（県内に3施設）が設置されており、認知症病棟があります。医師・看護師による医療はもちろん、作業療法士（OT）が音楽療法を採り入れるなど、さまざまなプログラムを行っており、吉田医師は次のように語ってくれました。

「当院での治療が他の認知症専門病院と比べて大きく違うことはないでしょう。ただ、国立病院機構の施設として、軽度の認知症患者さんに対する新薬開発のための治験（有効性や安全性を確認する試験）などに参加したり、新しいケアの仕方など、効果が期待できることは積極的に採り入れています」



## 魔法のような「ユマニチュード」

「ユマニチュードの効果にはびっくり」と笑顔で話してくれたのは井上裕子看護部長です。

「ユマニチュード」は、もともとフランスで考案された認知症ケアの方法で、今では世界各地で実施されています。日本では同じ国立病院機構の東京医療センターの本

田美和子医師（総合内科医長）が2011年に導入し、北陸病院の看護師も研修に参加して実践しています。「ユマニチュード」とは“人間らしさ”という意味で、「あなたは存在する」ということを強く意識した方法です。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つを基本とする150以上のポイントは「アイコンタクトが成立したら2秒以内に話しかける」といったもので、実は何気ない動作だといえます。



日々の看護ケアでも、患者さんが攻撃的になり拒否されてしまうことがあります。井上看護部長は「私たちでさえ拒絶されると落ち込みますし、ご家族ならなおさらでしょう。でも、ユマニチュードを実践すると患者さんが驚くほど安定し、よく“魔法のよう”と例えられます」と説明してくれました。

人として尊重したケアとは何か。スタッフたちは常にジレンマと戦いながら、こうしたテクニックも学び実践することで、その人らしく療養生活を送っていただけるよう努めているのです。

### 職員による「劇団やまだん野」

一方、認知症への対応の仕方が分からないという人も多いでしょう。このため同院では、認知症についての正しい理解や、どう接するべきかを患者さんのご家族や地域の方々知ってもらうために、「劇団やまだん野」が活動しています。



齋藤富美恵看護師長によれば、もともと認知症病棟の看護師たちの発案で立ち上げられた劇団で、今では地域連携室の職員や心理療法士なども加わり、6～7名ほどで活動しているそうです。上演テーマは認知症に限らず、地域での支えあい大切さなど、地域包括支援センターなどからのさまざまな要望に応える形で、年3～4回、院外でも公演しているといいます。

認知症を演じることで、地域での認知症への理解が進むことを狙った活動です。



同院では鑑別診断（似たような症状の病気と比較しながら病気を特定する診断）を行っており、近隣の医療機関とも連携して高度な画像診断装置（PET など）も用いることで、発症前から診断できる場合もあると吉田医師。こうした診断は北陸病院に限ったことではなく、国立病院機構では他にも認知症疾患医療センターに指定されている病院もあり、法人をあげて地域医療の維持・進展に貢献しています。

## 病院の歴史を見つめてきた敷地内の大木

NHO 三重病院院長の藤澤隆夫医師の父親は北陸病院（旧国立療養所北陸荘）に昭和25年から2年半入院していた。当



時を懐かしんだ父親の希望で一緒に同院を訪れたところ、建物や景色は変わっていたものの見覚えのある老木がしっかりと立っていたので父親は当時の記憶が蘇り大変喜んでいました。

その姿を見て藤澤医師も遠路はるばる来たかいたと感激したという。

### ■北陸病院（富山県南砺市）



北陸地区における NHO の精神・神経領域の基幹施設。政策医療の対象である精神疾患、神経難病そして重症心身障がいへの専門的な医療を行うことを基本方針としている。また、精神科救急医療や認知症でも地域医療に貢献している。許可病床数 274 床。